

クリスマスマーケット in うだ

# エストニアで学んだ経験フル発揮

## 子どもら主体のイベント開催

エストニアへの留学でアントレプレナーシップ教育を学んだ子どもらが主催するイベント「クリスマスマーケットinうだ」が14日、宇陀市榛原萩原の近鉄榛原駅前広場で開催された。宇陀市が取り組むアントレトリアルプロジェクトの一環で、子どもらが留学中に学んだ「自ら発信する」を実践。イベントの事前宣伝活動や販売する商品、値段付けを子どもら自身で行い、当日も大きな声で、自分たちの店をアピールしていた。

市は昨年7月に、エストニア共和国のサーレマー市と教育分野の交流と協力を柱にしたMOU(基本合意書)を締結。エストニアで取り組まれている自ら課題解決に向かい、他者と協働で解決策を探求する知識や能力などを学ぶ「アントレプレナーシップ教育」の推進に取り組んでいる。翌月には「アントレプレ

ナーシップの育成」をメインにしたサーレマー市にある高校への短期留学を実施。市内の学校に通う子どもや学校教員らが参加した。今回のイベントは、その

時に参加した留学生の他、参加した教員がアントレプレナーシップを取り入れた授業を行う榛原西小学生6年生を中心の実施。ヨーロッパ最古とされるエストニアのクリスマスマーケットにちなみ開催した。販売した商品もさまざまで、市内丸太専門メーカーと協力して作った雪の結晶や星などにかたどったキーホルダーの他、クリスマスツリー、サンタなどのイラストを描いたコースターを

「生徒会長が学校目標を『自ら発信する』に変えた」「最初から何事も無理と決めつけずに、提案する考え方を学んだ」と、アントレプレナーシップ教育で変化した学校生活などを話した。

販売。

他にもエストニア関連商品で、「恋の葉」として売られている菓子「マジパン」や、留学中に撮影したまちの風景を絵はがきにして販売。留学して最初に飲んだという「レモネード」を販売する出店もあった。

会場に設置するクリスマスツリーも自分たちで飾り付け  
改札を出てすぐの場所で販売されていたキーホルダーに手を伸ばす人の姿もあった

# アントレプレナーシップを実践



室生中学校吹奏楽部がクリスマスソングを演奏



エストニアのチョコレートを使ったクッキーの販売も



ヒノキにイラストを描いたコースターを販売



商品説明も子どもら対応



エストニアに着いて初めて飲んだというレモネードを商品として販売



エストニアで撮影した町並みの絵はがきを販売する店では撮影地の説明も